

教 育 方 針	【学校教育目標】「 夢に向かって のびる 杉っ子 」 ～わくわく登校 生き生き学習 笑顔でつながるみんなの学校 ～ 【めざす子供の姿】 ○進んで学ぶ子 【確かな学力】 ○郷土を愛する子【高い自己有用感】 ○強い心と体をつくる子【健やかな体】 ○心を磨く子 【豊かな心】	重 点 目 標	①互いのよさを認め合い、つながり合い、高め合う学習集団作り ②特別な教育的ニーズのある児童が生き生きと学ぶことができる 特別支援教育・教育相談の充実 ③他者の考えを尊重し、さわやかな自己主張で互いの納得解を見 つけ出そうとする話し合い活動の充実 ④ ICT を活用し、協働的で、個別最適な学びの一体的な充実をめ ざす授業づくり ⑤自らの生活や健康を管理し、自立した生活を送ろうとす る児童の育成 ⑥地域人材との交流学习を中心に、WIN × 2 のふるさとキ ャリア教育の推進 ⑦メンターチーム、学年団、校務分掌を中心とした次世代 育成システムの構築 ⑧子供と向き合う時間を生み出す業務改善、働き方改革
------------	---	------------	---

（ 4：十分に達成できた 3：ほぼ達成できた 2：あまり達成できず 1：ほとんど達成できず）								
評価項目	具体項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価基準	自己評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
確 か な 学 力	○子供同士がつながる話し合い活動。	○児童の発言は増えたが、深まりのある話し合いにはなっていない。	○友達との話し合いを通して学習内容の理解を深める。	○授業で行う話し合い場面(ねりあい)で児童が発言をつなげあうことで学習内容の理解を深める。	◆授業中の教員による見取りと児童アンケートにおける肯定的項目達成 70 %以上。	3	・学活では話し合い活動が進み、様々な伝え方を学んでいる。 ・国語の取り組みが進んでおらず、十分な語彙を得られていないと感じる。	・学活の話し合い活動で学んだ話形を、意識して教科へ広げていき、児童の言葉で深まる授業を目指す。 ・「ことばのたから箱」は教室に掲示し、語彙を増やす助けとする。算数の図を
	○読み取りの力の向上	○算数の力は高まりつつあるが、読み取りの力が低い。読むことへの意欲が低い。	○問題の場면을正しく読み取り、課題を解決することができる。	○国語の教科書巻末の「ことばのたから箱」を活用し、語彙を増やす工夫をする。 ○算数では、図をかきながら問題を読むようにする。 ○図書館の使用割り当てを活用する。	◆教員へのアンケート達成率 70 %以上。	3	・算数は図をかいいて説明する単元が多くあり、取り組めた。 ・図書館の本の学級貸し出しは増えたが、図書館活用は少なかった。活用割り当ての効果を検証していく必要がある。	・「ことばのたから箱」は教室に掲示し、語彙を増やす助けとする。算数の図をかいいて説明する取り組みを継続する。 ・関連図書を集めてもらえばかりではなく、自分たちでも図書館で探すなどの活動も入れていきたい。その他の活用例も図書館の担当より提示してもらう。個人の貸出しも継続して声かけをする。
	○読書活動・図書館活用の充実と発展	○学習での図書館利用は十分ではない。	○図書や図書館を活用し、読書や学習への意欲が高まる。		◆教員へのアンケート達成率 70 %以上。	3		
豊 か な 心	○自己有用感、自己肯定感の育成	○様々な活動や学習に前向きな気持ちで取り組む児童がいる。一方で、自分の良さや役立ち感に気づかず、後ろ向きな発言をする児童も見られる。	○学校や学級への所属感を高め、役立ち感を味わい、笑顔で生活している。	○学級活動（１）でみんなで話し合っ て決めたこと（遊びや役割など）を実 践することで、役立ち感や有用感など を高める。	◆児童アンケートで自己有用感、自 己肯定感の項目で肯定的意見が 80 %以上。	3	・学級での話し合い活動において、普段発言の少ない児童が活躍する、友達の意見を 受け止める、協力するなどの 姿が見られ、自己有用感、 自己肯定感の育成につながる 土壌を築くことができた。	・話し合い活動で決まったことを実践し、 振り返り、次の活動につながる過程を 重視して児童の学級での役立ち感や有 用感がスパイラルに高まる手立てを打 つ。
	○あいさつを当たり前にする子の育成	○すれ違う際に先生や来客を見かけたら自然とあいさつをする児童がいる。一方で、あいさつが習慣化していない児童も見られる。	○いつでも、どこでも、誰に でもあいさつをしている。	○あいさつ標語、あいさつキャラクタ ーなどを募集するなど、児童会活動を 充実させることであいさつへの意識を 高める。 ○学級活動（２）で自己決定した取組 をあいさつ週間で実践する。	◆児童アンケートであいさつに関する項目で肯定的意見が 80 %以上。	2	・児童会を中心としたあいさ つ運動を通して、学校前、 児童玄関、教室に入るとき には明るく元気なあいさつ ができています。	・廊下でのすれ違いや来客へのあいさつ など、自然体なあいさつができるよう、 取り組みを工夫する。
健 や か な 体	○体力の向上	○新体力テストで例年に(本校) 比べ、シャトルラン、 反復横跳びが少し低い。	○自分の体力を向上させよう とする意識を持ち運動する。	○体育の授業を中心に縄跳びなどの運 動を取り入れたり、マラソン大会に向 けて全校のみんながやる気を出す取り 組みを体育委員会で企画したりする。	◆シャトルラン、反復横跳びの体力 結果を例年の数値に近づける。	3	・体育の学習で縄跳び運動を 習慣化することができた。 体力結果は例年より半数に 向上が見られた。	・なわとびを中心とした持久力向上に繋 がるイベントを企画し、意欲を高める。 ・持久力の向上に繋がるよう、マラソン 大会の形態の見直しを行う。
	○体づくり（姿勢）	○姿勢の保持や大きなけが を未然に防ぐことができる 運動能力や体幹づくりが課 題。	○よい姿勢を保持して学習で きたり、自分の身を守るた めの運動能力を向上させよ うと努力したりする。※立腰	○朝の会での「ワンミニッツエクササ イズ」等の実施（学級で工夫）や、学 級・学年のみんなで楽しく挑戦できる 運動（大縄跳び等）を行う。 ○町教育会健康体育部の保小中の状況 や課題、PTA 保体部での考察等を共 通理解して生かす。	◆児童アンケート「良い姿勢で学習 した」等の達成率 75 %以上を目指 す。	3	・「授業の始めと終わりで立腰 ができた」と回答した児童 が8割以上で、児童にも意 識化されつつある。 ・PTA 保体部のメディコン 分析で、保護者の意識が向 上している様子が見られた。	・ワンミニッツエクササイズを工夫し、 よい姿勢保持を図る。立腰の頻度を上 げ、意識化を図る。(授業中にも立腰 を意識させる) ・専門家を招いたメディアに関する講演 会を設定し、啓発を図る。
	○メディアコントロールの推進	○タブレット使用等、メデ ィアに関わるが増加。	○正しくメディアを活用し関 わるができる。		◆年2回のメディコンウィークの結 果を考察し、意識の向上を図る。	3		
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	○地域とともに当事者意識でつくるみんなの学校	○分担により HP 担当の負担が軽減されたが、校外学 習等学年行事の更新ができ ていない学年もあった。	○メディアの特長を活かして タイムリーに情報発信してい る。高学年児童を中心に児童 主体で情報発信している。	○高学年児童を中心に相手意識の醸 成や学びの活用を目的とし、学習のま とめ等の場面で HP での情報発信を する。	◆ 年間行事、学年の校外学習等を 更新している。	3	・学年によっては割り当て以 上の回数でHPを積極的に 更新できた。地域 CO によ りボランティア活用の情報 を発信できた。	・HP 更新を地域 CO とも協力して進め る。児童による発信は、学習のまとめ、 情報発信等の手段として活用できれば と考える。
		○6 地区の情報が掲示発信 されるようになった。児童 への周知が必要。	○地区の行事や特色を知り、 地域に関心と愛着をもってい る。	○公民館の協力を得て掲示板更新と事 業写真を掲示。地区事業チラシ配布時 に担任から周知する。	◆掲示板を見ている児童や事業参加 する児童の割合が年度始めより増え ている。アンケートを実施。	2	・地区によっては掲示が更新 されないところもあった。 子供向けの行事・事業が少 ないためかもしれない。	・各地区での活動の様子がわかる写真等 を公民館と共有し、掲示したい。
		○コミュニティ・スクール が発足したが、地域を呼び 込むことが十分とは言えな い。	○コミュニティ・スクールを 生かし、地域と学校の双方が 連携のよさを実感する。	○年間学習計画を見直し、地域の人材 を活用できそうな単元、必要としてい るものを見える化し地域へ伝える。で きれば相手からも返事をいただく。	◆学校での学習内容や計画の中の位 置づけ、必要な人材を確保できたか。	3	・各学年の計画に地域人材を 位置づけ、2学期以降、た くさん支援に入っていた いた。	・年間活動計画を検討し、来年度開始ま でにボランティア依頼の一覧をまとめ る。4月にボランティアの募集をする。